

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 18 日現在

機関番号：13801

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25380666

研究課題名(和文) ロンドン五輪報道をめぐる国際ニュース・フレームの分析：北京五輪との比較から

研究課題名(英文) An Analysis of International News Frame in Japanese Television News Coverage during the London Olympics Period: A Comparison with the Beijing Olympics Period

研究代表者

中正樹(Naka, Masaki)

静岡大学・情報学部・准教授

研究者番号：70388685

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は2つある。第1に、日本のテレビニュース番組がロンドン五輪開催期間にどのようにニュースを報道したのかを内容分析することである。第2に、その分析結果と北京五輪開催期間における同様の内容分析の結果を比較することである。ロンドン五輪開催期間のニュース報道の内容分析結果は、2014年度武蔵社会学会で報告した。また、『ソシオロジスト』No.17に論文として発表した。2つの五輪開催期間のニュース報道の内容分析結果の比較に関する考察は、EASM2015で報告した。これら2つの研究目的の達成を通じて、日本のテレビニュース番組における国際報道のニュース・フレームについての知見を得た。

研究成果の概要(英文)：This study has two purposes. First, a content analysis of Japanese television news coverage during the London Olympics. Second, a comparison of the London Olympics period with the Beijing Olympic Period. We presented that a content analysis of Japanese television news coverage during the London Olympics at the Musashi Sociological Society in 2014, and appeared in The Sociologist No.15. In addition, we presented that a comparison of the London Olympics period with the Beijing Olympic Period at the 23rd Conference of the European Association for Sport Management: EASM2015. Through achievement of these two purposes, we obtain knowledge of the news frames international coverage of Japanese television news coverage.

研究分野：ジャーナリズム

キーワード：テレビ ジャーナリズム ニュース 内容分析 オリンピック

1. 研究開始当初の背景

五輪は世界でもっとも規模の大きいメディア・イベントの1つである。グローバル化の進んだ現代においても、それは原則として1国で開催され、その開催スタイルはその開催国を象徴的に反映する。開催国はこのイベントを通じて自国の肯定的なイメージを発信するために尽力し、そしてそれを報道する国のジャーナリズムは、それまで彼らが自国で培養させた開催国のイメージをフィルターとして発信されたイメージを解釈しつつ報道する。

したがって、五輪報道は日本をはじめ、各国でメディア領域の重要な研究対象となってきた。そして、ステレオタイプ形成(例えば、Duncan and Messener 1998、上瀬2007)や偏向報道(例えば、Tuggle, Huffman and Rosengard 2002)、メディア・イベント(例えば、Real 1985)やオーディエンス・リサーチ(例えば、Roche 2000)など、多様な視点から研究されてきた。

研究代表者らは国際テレビニュース研究会に所属している。同研究会は、1974年から現在に至るまで主に国際比較の観点から国内外のテレビニュースに関するさまざまな研究に取り組んできた。その過程で、本研究会が研究対象として注目したのが五輪期間中のテレビニュース報道である。五輪の開催期間中、テレビニュース番組は日本の選手だけではなく、海外の選手や開催国についても多くの時間を割いて報道する。それらの報道に対する内容分析は、日本のテレビニュースにおける海外報道のフレームを理解するための重要なニュース・コンテンツと考えられた。

2008年の北京五輪と2012年のロンドン五輪は日本にとって対照的な2国によって開催された五輪であった。片や日本の隣に位置するアジアの大国、片や日本からはるかに離れたヨーロッパの強国。前者は日本と歴史的に深いつながりを持ちながら第二次世界大戦時の経緯から日本人にとって複雑な国民感情が存在する国家であり、後者はかつてに比べれば衰退したとはいえ欧米を代表する国家の1つとして日本人にとって未だ憧憬の対象となる国家である。これら2国で開催された五輪の開催期間におけるニュース報道の内容分析は、本研究の目的に対して有効な知見を示唆するであろうことが期待できた。

2. 研究の目的

本研究の目的は2つある。第1に、ロンドン五輪開催期間に報道された日本のテレビニュースを内容分析することである。第2に、その分析結果と2008年に実施した北京五輪開催期間における内容分析結果を比較することである。これらの2つの研究目的の達成を通じて、日本の代表的なテレビニュース番組に内在する国際報道のニュース・フレームを明らかにする。

計画している研究項目は、1. ロンドン五輪開催期間に日本の代表的なテレビニュース番組が報道したニュースの内容分析、2. ロンドン五輪と北京五輪、それぞれの開催期間におけるテレビニュースを内容分析した結果の量的・質的な比較、3. 五輪開催国と日本の歴史的・政治的・経済的・文化的関係がテレビニュース番組の内容・表現・形態等に与える影響の解明、の3つである。

3. 研究の方法

[平成25年度]

ロンドン五輪開催期間に日本のキー局が提供する代表的なニュース番組が報道したニュースの内容分析

- ロンドン五輪開催期間に日本のキー局(NHK、日本テレビ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日)が提供する代表的なテレビニュース番組が報道したニュースを内容分析することで、その量的・質的な傾向を把握することを目的とする。本研究はロンドン五輪期間におけるニュースを分析の対象とするが、その前後の期間に報道されたニュースも五輪開催以前/以後のニュースとして分析対象とする。
- 録画したニュース番組のコーディングにあたっては、国際テレビニュース研究会がこれまで開発・改良を重ねてきたテレビニュースの内容分析の手法を用いる。具体的には、ニュース番組を視聴しつつ、ニュースをニュース項目ごとに分類し、ニュースの「映像内容」、「開始・終了時間」、「タイトルテロップ」、「関係地域」、「分野」、「英国(人)への言及・発言および映像」についてコーディングシートに記入していく。コーディングは、十分に訓練を積んだコーダーが実施する。
- コーディングしたデータに対しては統計的処理を施して、量的分析を行う。これが基本データとなる。これにより、ロンドン五輪報道の傾向を抽出する。そして、量的分析で得られた結果を参考として質的分析に取り組む。具体的には、共同研究者各自の専門領域にしたがってテレビジャーナリズム、スポーツジャーナリズム、ナショナリズム、エスニック、ジェンダー、客観報道、映像といった点から五輪報道に着目して質的分析を加える。

[平成26年度]

ロンドン五輪と北京五輪、それぞれの開催期間におけるテレビニュースを内容分析した結果の量的・質的な比較

- ロンドン五輪と北京五輪、それぞれの開催期間におけるテレビニュースを内容分析した結果を量的・質的に比較する。前者の内容分析と後者の内容分析は、同一の方法でコーディングおよび集計されて

いる。したがって、その比較は比較的問題なく実施可能である。また、研究代表者らは全員、北京五輪期間中のニュース報道の内容分析に参加しており、データの把握も容易である。

五輪開催国と日本の歴史的・政治的・経済的・文化的関係がテレビニュース番組の内容・表現・形態等に与える影響の解明

- ・ ロンドン五輪と北京五輪、それぞれの開催期間におけるテレビニュースを内容分析した結果を量的・質的した結果を分析材料として、日本のキー局が提供する代表的なテレビニュース番組に内在する国際報道のニュース・フレームを明らかにする。その際には、ロンドン五輪開催期間におけるニュース番組の内容分析と同様に、共同研究者各自の専門領域にしたがってテレビジャーナリズム、スポーツジャーナリズム、ナショナリズム、エスニック、ジェンダー、客観報道、映像といった点から五輪報道に着目して検討、考察を加える。

[平成 27 年度]

前年度まで得られた知見をもとに、学会発表を実施する。現時点では、国内外の学会における発表を視野に入れている。現時点で想定しているのは、国内であれば日本マス・コミュニケーション学会、海外であれば EASM2015 (The 23th Conference of the European Association for Sport Management) である。また、共同研究者が自らの専門分野にしたがって論文を執筆するとともに、共同で報告書を執筆する。

4. 研究成果

[平成 25 年度]

ロンドン五輪開催期間に日本のキー局が提供する代表的なニュース番組が報道したニュースのコーディングに取り組んだ。分析の対象となるニュース番組は、「NHK ニュース 7 (NHK)」、「NEWS ZERO (日本テレビ)」、「NEWS23X (TBS)」、「NEWS Japan + すぼると! (フジテレビ)」、「報道ステーション (テレビ朝日)」の 5 番組である。これら 5 番組が、五輪開会式 4 日前の 2012 年 7 月 24 日から五輪閉会式 4 日後の 2012 年 8 月 16 日までの計 24 日間に報道したすべてのニュースを対象としてコーディングを実施した。

コーディングにあたっては、国際テレビニュース研究会がこれまで開発・改良を重ねてきたテレビニュースの内容分析の手法を用いた。具体的には、ニュース番組を視聴しつつ、ニュースをニュース項目ごとに分類し、ニュースの「映像内容」、「開始・終了時間」、「タイトルテロップ」、「関係地域」、「分野」、「英国(人)への言及・発言および映像」についてコーディングシートに記入していった。コ

ーディングは共同研究者および十分に訓練を積んだコーダーが実施した。その結果、対象となるすべてのニュース番組、すべての対象期間のニュースのコーディングが完了した。

[平成 26 年度]

第 1 の目的について、2014 年度武蔵社会学会にて「ロンドンオリンピックのテレビニュース報道に関する内容分析」のタイトルで研究発表した(於武蔵大学、2014 年 7 月 19 日)。また、研究論文「ロンドンオリンピック開催期間における日本のテレビニュース報道に関する内容分析」を執筆し、『ソシオロジスト』No.17 に掲載された(2015 年 3 月)。

[平成 27 年度]

第 2 の目的について、第 1 の目的に関する詳細なデータをも含めた報告書『ロンドンオリンピック開催期間における日本のテレビニュース報道』(国際テレビニュース研究会)を刊行し、2 つの五輪開催期間における内容分析結果を量的、質的に比較、考察した(2015 年 6 月)。そして、その研究成果を the 23rd Conference of the European Association for Sport Management: EASM2015 at the Aviva Stadium in Dublin, Ireland にて A Content Analysis of Japanese Television News Coverage during the London Olympics Period: A Comparison with the Beijing Olympics Period のタイトルで研究発表した(2015 年 9 月 11 日)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

中 正樹・日吉昭彦・小林直美, 2015, 「ロンドンオリンピック開催期間における日本のテレビニュース報道に関する内容分析」『ソシオロジスト』No.17: 147-182.(査読有)

[学会発表](計 2 件)

Naka, Masaki Hiyoshi, Akihiko and Kobayashi, Naomi, 2015, A Content Analysis of Japanese Television News Coverage during the London Olympics Period: A Comparison with the Beijing Olympics Period, the 23rd Conference of the European Association for Sport Management: EASM2015 at the Aviva Stadium in Dublin. (2015 年 9 月 11 日)

中 正樹・日吉昭彦・小林直美, 2014, 「ロンドンオリンピックのテレビニュース報道に関する内容分析」2014 年度武蔵社会学会(於武蔵大学).(2014 年 7 月 19 日)

〔図書〕(計 1 件)

中 正樹・日吉昭彦・小林直美, 2015,
『ロンドンオリンピック開催期間にお
ける日本のテレビニュース報道』国際テ
レビニュース研究会.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中 正樹 (NAKA, Masaki)
静岡大学・情報学部・准教授
研究者番号：70388685

(2) 研究分担者

小玉 美意子 (KODAMA, Miiko)
武蔵大学・総合研究所・研究員
研究者番号：10231482

日吉 昭彦 (HIYOSHI, Akihiko)
文教大学・情報学部・准教授
研究者番号：80383313

小林 直美 (KOBAYASHI, Naomi)
山形大学・学術研究院・助教
研究者番号：90633834

(3) 連携研究者

()

研究者番号：